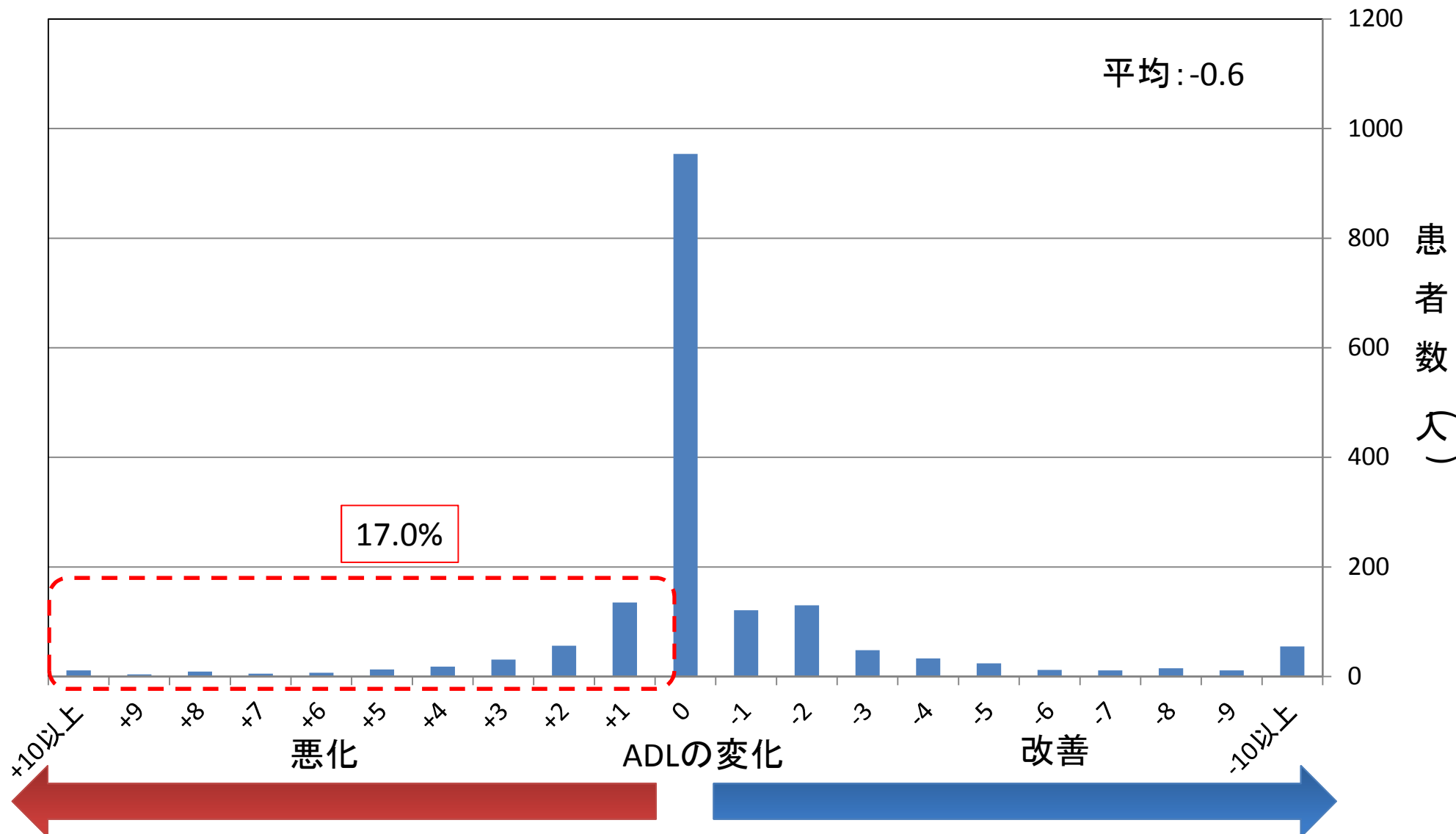


7対1病院における調査期間(2週間)中のADL*の変化(平成24年度調査)

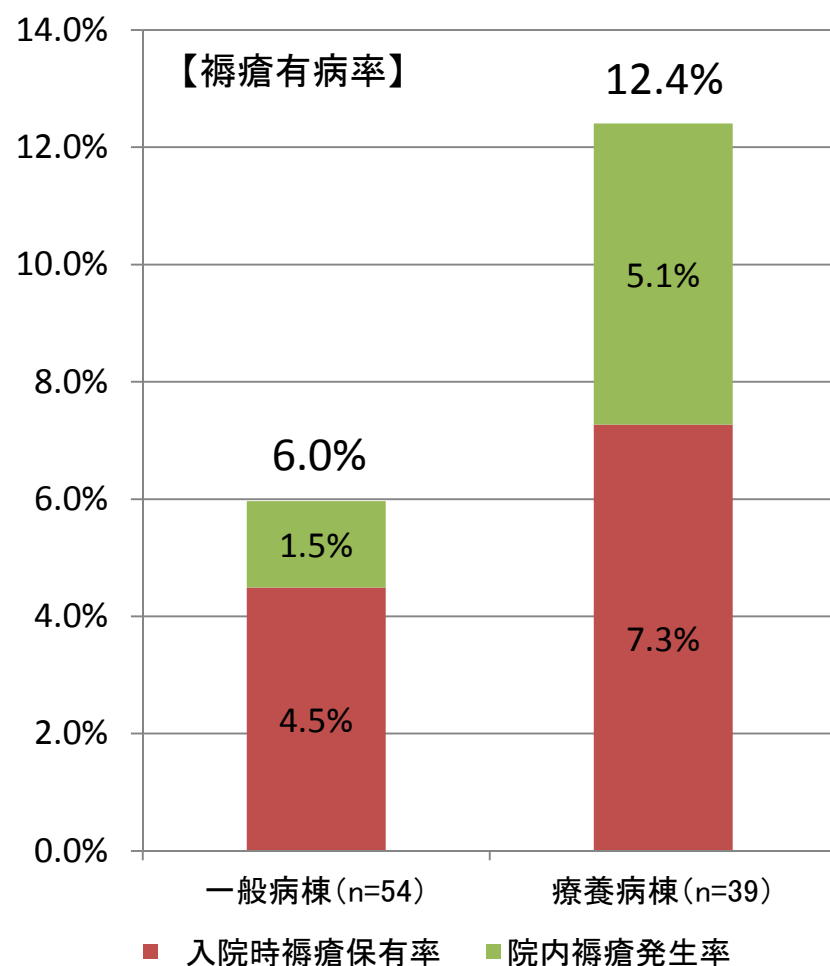
N=1,703

*重症度・看護必要度B項目の値



医療機関における褥瘡を有する患者の状況

- 褥瘡有病率は一般病棟が6.0%療養病棟が12.4%であった。
- 院内褥瘡率は、一般病棟が1.5%、療養病棟が5.1%であった。



		一般病棟 (n=54)	療養病棟 (n=39)
入院患者数(①)	人	4,408	2,064
褥瘡を有する入院患者数(②)	人	263	256
褥瘡有病率(②／①)	%	6.0%	12.4%
入院時に既に褥瘡を保有していた入院患者数(③)	人	198	150
入院時褥瘡保有率(③／①)	%	4.5%	7.3%
院内で発生した褥瘡を保有している入院患者数(④=②－③)	人	65	106
院内褥瘡発生率(④／①)	%	1.5%	5.1%

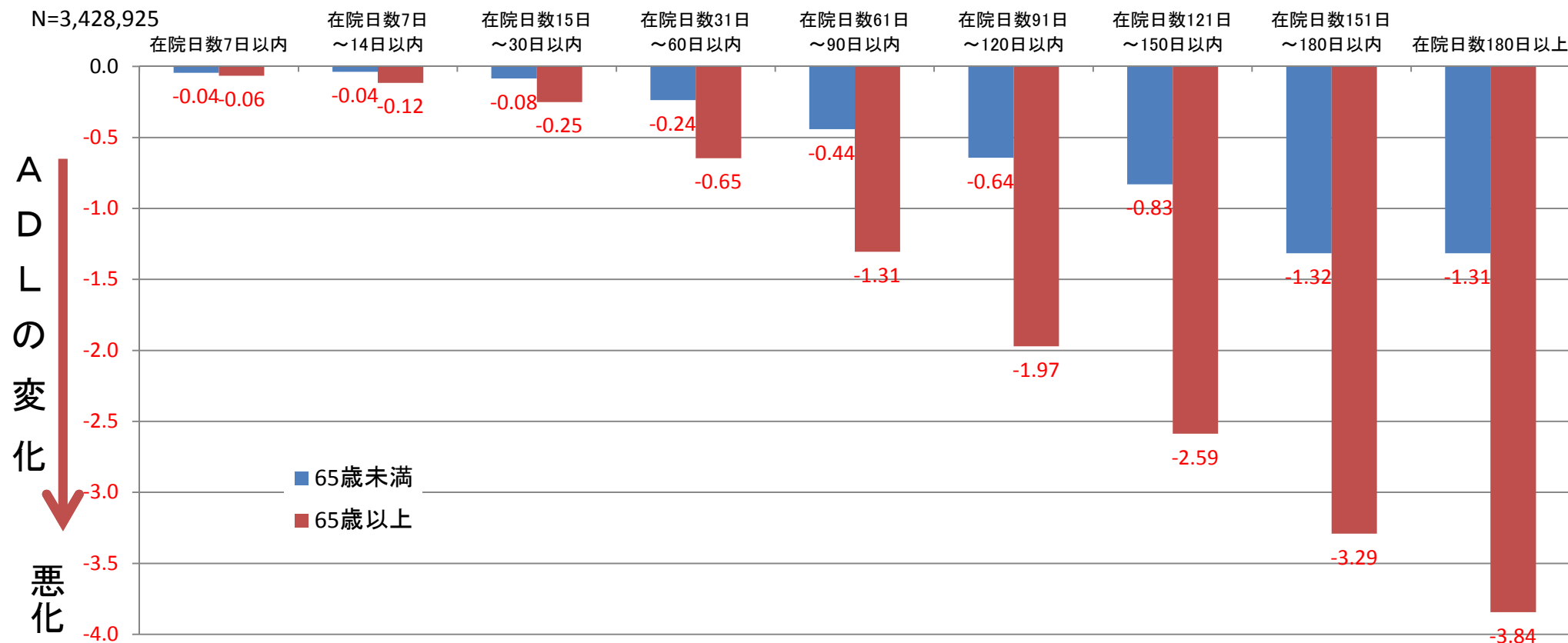
7対1病院における入院中のADLの変化 ②(DPCデータ)

診 調 組 入 - 1
2 5 . 7 . 3 1

注:ADL評価に不明が含まれる症例を除く

入院時のADLが自立(20点満点)の患者の入院中のADL変化
(在院日数別、年齢階級別、平均ADL変化値)

N=3,428,925



入院時にADLが自立している患者の場合、在院日数が長いほど退院時にADLが低下している値が大きい。また、65歳以上の患者の方が低下するADLの値が大きい。

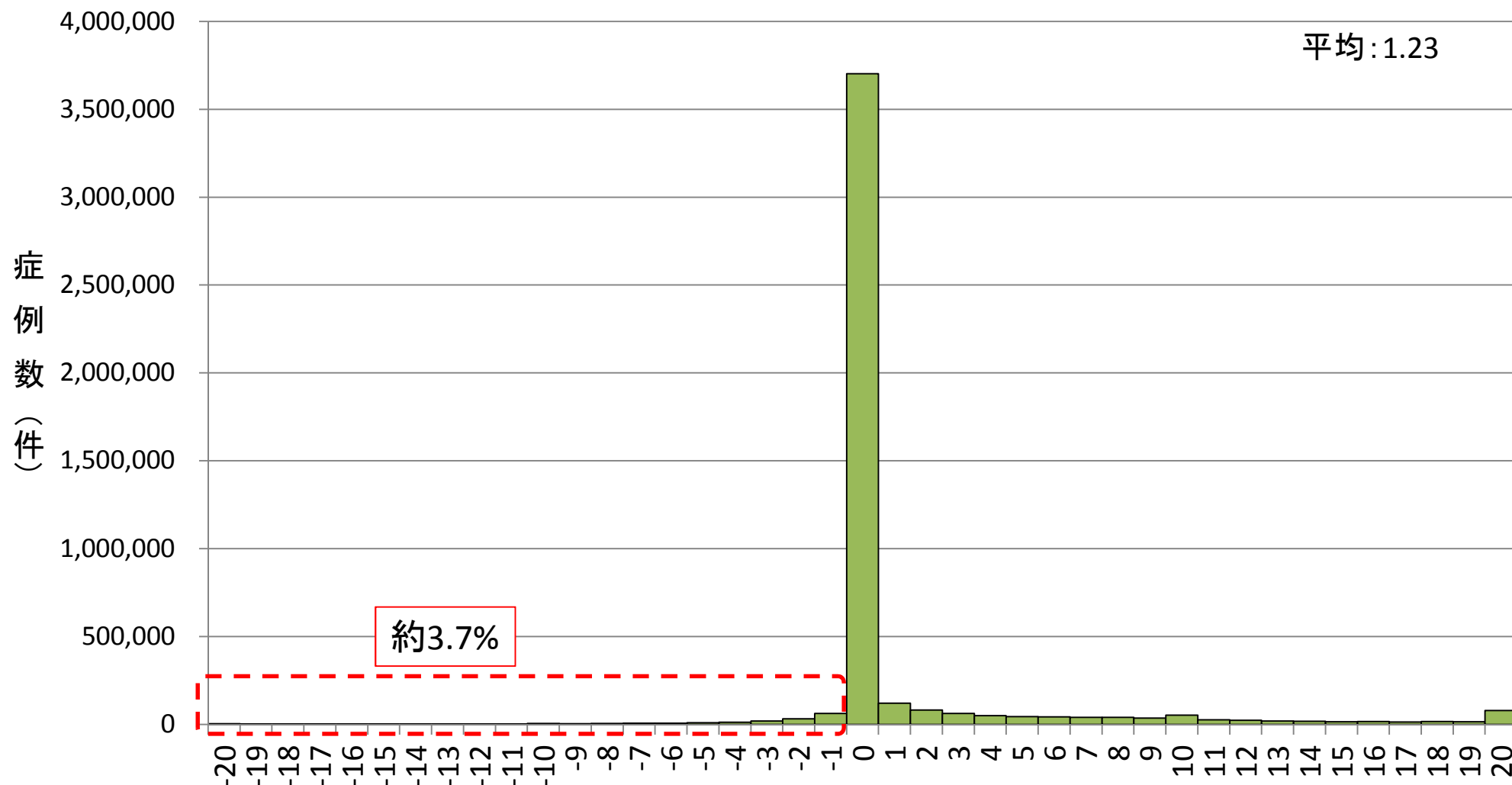
7対1病院における入院中のADLの変化 ①(DPCデータ)

診調組 入 - 1
2 5 . 7 . 3 1

注: ADL評価に不明が含まれる症例を除く

N=4,676,063

入院時ADLと退院時ADLの変化(TOTAL)



平成23年度DPCデータ

悪化

ADLの変化(退院時ADL－入院時ADL)

改善

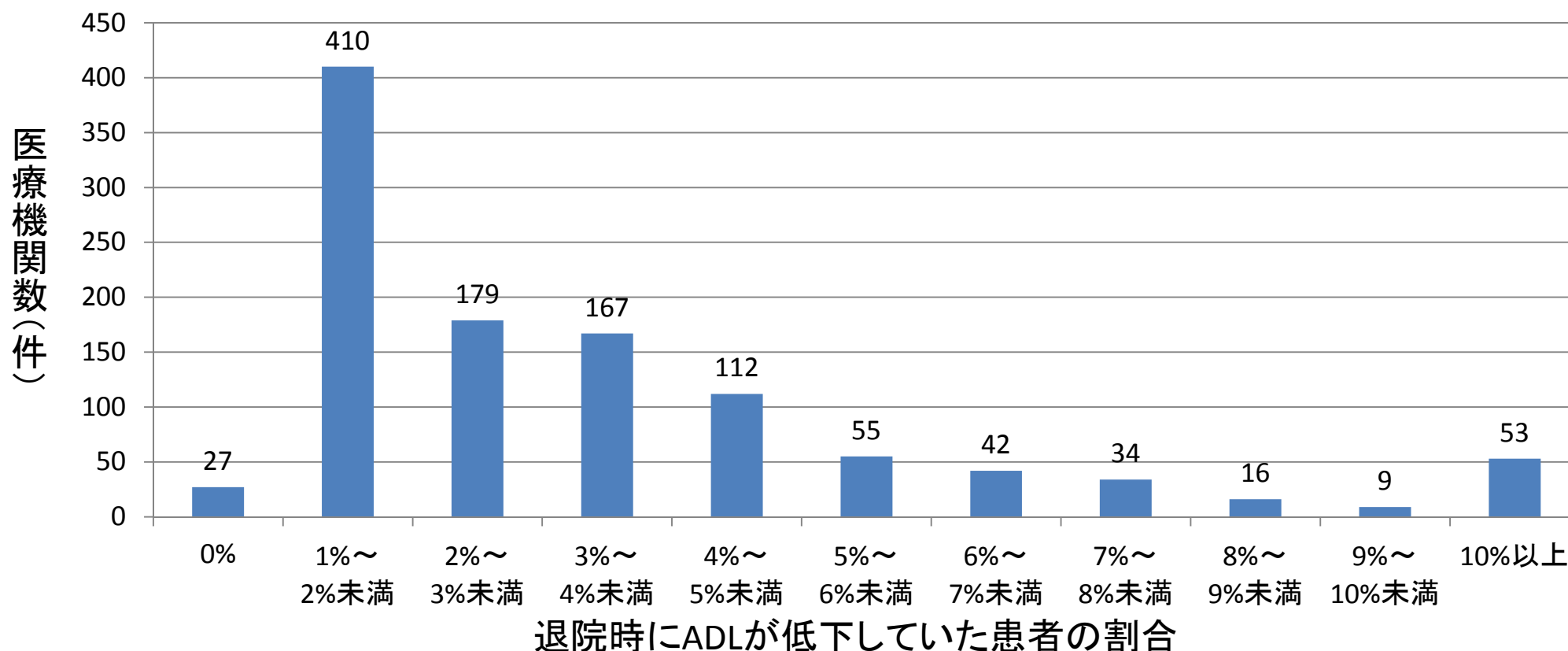
7対1病院における入院中のADLの変化 ③(DPCデータ)

診 調 組 入 - 1
2 5 . 7 . 3 1

注:ADL評価に不明が含まれる症例を除く。該当症例が12件/年以下の医療機関を除く。

入院時のADLが自立(20点満点)の65歳以上の患者のうち、
退院時にADLが低下していた症例の割合別の医療機関数

N=1,104



入院時にADLが自立している65歳以上の患者のうち退院時にADLが低下していた症例割合が一定程度ある医療機関が存在している。

DPCデータにおけるADLの評価基準

診 調 組 入 - 1
2 5 . 7 . 3 1

分類	所見			
	自立	一部介助	全介助	不明
食事	2	1	0	9
移乗	3	2 軽度の介助で可能	0 座位バランス困難	9
		1 高度の介助を必要とする が座位保持可能		
整容	1	0		9
トイレ動作 トイレの使用	2	1	0	9
入浴	1	0		9
平地歩行	3	2 一人介助で歩く	0	9
		1 車いすで自立		
階段	2	1	0	9
更衣	2	1	0	9
排便管理	2	1	0	9
排尿管理	2	1	0	9